



今原 ゆかり 議員

災害時の乳児用備蓄品 について

問 液体ミルクと粉ミルクは、いずれも消費者庁の特別用途品の認可を受け、成分規格には差がない。以前、「福祉避難所で備蓄されている粉ミルクの更新時期をみて調整していきたい」と

答弁されたが、現在備蓄している粉ミルクの消費期限はいつか。

答 令和2年4月1日が消費期限で、来年1月ごろの更新を予定している。

問 次に更新するミルクは、液体ミルクを予定しているか。

答 未定である。液体ミルクは水が使えないときも哺乳瓶に注げばそのまま飲めるが、防災倉庫は季節によっては高温になって、保管に適していない。開封後全て使い切ることや保存期間が短いこと等、課題もある。メーカーが、さらに使いやすい製品になるよう改良を加えていくと聞いており、この件については、検討を進め

ていきたい。

プログラミング教育について

問 来年度から、小学校でプログラミング教育が必修化される。カリキュラムは、どういうメンバーでどのようにつくられたのか。

答 平成30年度から、愛知教育大学の先生を助言者とし、校長代表の委員長以下、小中学校の教務主任、教科指導員等で構成されたプログラミング教育推進委員会を立ち上げ、教育委員会が事務局を担当している。たかはま夢未来塾のロボットクラブ監修の下で研修を進めてきており、高浜市独自のロボットプログラミングの実践的カリキュラムを作成しているところである。

問 学年ごとの発達段階や、各教科の特性に合わせた学習指導が必要となるが、今後の取り組みはどうか。

答 小学校の全ての教員に向けて、小学校の中学年で実施するプログラミングソフトの研修を行った。本年度から学校にプログラミング教育支援員を配置し、実践や研修を重ねて、ICTの環境整備を進めていく。



荒川 義孝 議員

地域資源を活かし、産業を 活性化するまちについて

問 市外の企業等を本市に誘致する施策は。

答 産業立地促進支援制度、企業誘致等奨励制度で8社の誘致に繋がっている。

問 ITをはじめ、事業部門の企業オフィスやベンチャー

企業等の誘致は可能か。

答 大規模な整備が不要であるところはメリットであるが、誘致は行っていない。

問 市内法人で大半を占める、中小企業を中心とした既存企業への支援策や取り組みは。

答 瓦業界への支援としては、伝統産品、伝統の名匠として認定の支援を行っている。

問 地場産業を活用したコミュニティビジネスの内容と、人材育成の観点からの成果は。

答 高浜高校の生徒が地元の産業を理解し、商品を開発し、自らの力で交渉や依頼を行うことで将来の夢を実現する力を養っている。

問 6月補正予算で空き店舗やテナント等を活

用し、若者が起業等にチャレンジできる場や機会を創出するとあるが、チャレンジの場は。

答 ショッピングセンターの空きテナントスペースを若者等が実験的に挑戦したい場合、チャレンジショップ等で限定期間内使用できる。

問 起爆剤となる新たな産業の創出についての考えや、財政基盤の強い高浜を作るための産業振興における将来展望については。

答 「ものづくり」の精神を大切に、産業界の変化の動向を注視しつつ、さらなる産業振興策と人材育成に取り組んでいきたい。

市制施行50周年を契機としたシティセールスについて

問 市の魅力を内外に十分に発信するチャンスだが、どのように発信するのか。

答 関わっていただく全ての方や団体が、広報マンとして発信していただけるよう働きかけたい。

問 シティセールスは、一過性のものでなく継続性が必要であるが、どのように考えているか。

答 市の魅力を掘り起こして磨きをかけることで、イメージアップや知名度の向上を図り、交流・定住人口の増、新規創業や出店等、地域活性化や賑わいの創出につながると考えている。